



Wings for Life World Run

ウィングス フォー ライフ ワールドラン

WINGS FOR LIFE 財団

「脊髄損傷を治療可能に」 走れない人のために走るチャリティイベント

レッドブルの創設者、ディートリッヒ・マテシッツが設立した脊髄損傷の治療研究に資金援助する非営利団体「WINGS FOR LIFE 財団」を支援するための世界最大規模のチャリティランニングイベント。2014年に全世界6大陸32カ国、34カ所のコースで初開催された。通常のマラソンやランニングイベントのように距離や時間で区切られたゴールが存在しない代わりに、スタート30分後に「キャッチャーカー」という車両がスタートする。このキャッチャーカーに追いつかれた選手はその時点で競技終了となり、その時点までに走行した距離が自身の記録となる。世界の各国全会場で同時刻にスタートするため、世界中で最後の最後までキャッチャーカーに追いつけなかった選手が世界チャンピオンとなり、世界規模の“鬼ごっこ”と呼ばれる所以。

第二回となる2015年大会は、世界6大陸33カ国、35カ所のコースにて、136カ国の18歳から91歳までの73,360人が「走れない人のために走る」のスローガンのもとに集まり、13の異なるタイムゾーンで世界同時刻にスタートした。日本でも初開催され、5月3日20時に滋賀県高島市の今津総合運動公園からスタートし、2,024名の選手が参加。渡邊裕子選手が56.33km地点で、世界で最も遅くキャッチャーカーに追いつかれた女性となり、日本人初の女子世界チャンピオンとなった。本イベントの全参加料、約420万ユーロ（約5億6千5百万円）は、その全額（税引後）と同額が、WINGS FOR LIFE 財団に寄付された。

明確なゴール地点が設定されず、キャッチャーカーというゴールが追いかけてくるユニークなチャリティランニングイベント。第一回大会は世界6大陸32カ国、34カ所のコースで開催され35,397人が参加。第二回から開催された日本大会では、アンバサダーとして、レーシングドライバーの小林可梦偉選手、レッドブルエアレースパイロットの室屋義秀選手、100kmマラソン世界記録保持者の砂田貴裕氏、元Jリーガーで車椅子バスケットボールの選手として4回連続でパラリンピック日本代表として活躍した、京谷和幸氏が就任し大会を盛り上げた。男子の部は第一回の優勝者でもあるエチオピアのLemawork Ketema選手が79.90km地点まで走り、大会2連覇を達成した（第一回大会78.58km）。2016年の日本大会は5月8日（日）20時に同会場での開催が決定しており、エントリー受付中。

